

中文大家楽

みんなで楽しむ中国語

第6号 中秋節号(2009・10・3)

2009・11・3 発行 松江中国語教室連盟 年3回発行

ホームページでもご覧になれます

<http://homepage3.nifty.com/chinese-wang/>

協力 「日本中国語検定協会松江会場」 「こんにち輪」

上野理事長の講演会を拝聴して

松江会場 初代責任者 多賀礼子

去る九月六日、松江テルサ大会議室で日本中国語検定協会主催、松江会場及び境港会場の真摯な取り組みにより、東京本部から上野理事長をお招きして島根鳥取合同で初の講演会が開かれた。西は浜田から東は鳥取まで、会場いっぱいの参加者にご来場いただき、松江の夏の名残りの空を爽やかに風吹きわたる一日となった。

島根大学中文の内藤先生の中国語を交えた祝辞が述べられ、斎藤志栄松江会場責任者により、講演に際し挨拶が日本語で為された。

上野理事長は古希を過ぎられたらしいのに、その生来のお人柄と相まって青年のようにはにかみがちである。NHK ラジオ講座でも長年講師を務められ、物静かな話し方の共立女子大学教授でもある。前段では自伝的な中国文学や中国語学への道程をお話し下さった。東京教育大学（現筑波大学）から大阪市立大学院の出身である。

量詞の豊富な中国語が如何に日本語にも大きな影響を及ぼしているかの話、布は一匹、と数え、花には朶、枝、束などが用いられる。中国語は動詞を重視し、日本語は名詞を重視している言語であると解説なさった。日本語との語順の違いが学習を大きく妨げるがそれだけに学習者の中国語への興味は尽きない。四声に見る声調や特有の音声の美しさは、西のフランス語と並び美しい言語の両雄と称され、学習者は引きも切らない。P2 に続く* 1

松江中国語教室連盟の活動紹介



9月6日にテルサにて上野恵司先生の講演会を開催した。演題は「ことばから見た中国語の考え方」



チャイドレスショの様子。7月5日に国際交流会館で七夕交流会を催した。七夕は中国のバレンタインデーと見なされている。参加者の皆さんが中国語で書いた願い事を第2面で掲載している。

お知らせ

松江中国語教室連盟の活動第16回

『北京の52日』～初めての中国留学

北京の大学に念願の中国留学を果たした黒谷さんのお話を聞きます。建国60年の国慶節の真っ最中に滞在された黒谷さんは北京の様子や留学生生活を写真で紹介してくれます。今後留学を目指す皆さんの参考に、あるいは友好交流と一緒に考える機会にしていだければと思います。カメラマンである黒谷さんがどんな写真を見せてくださるのかも楽しみです。

ぜひお気軽にご参加ください。

場所 松江市国際交流会館3階 AV室

日時 2009年12月5日(土)14時～16時

参加費 300円

「中文大家楽」は随時記事を募集しております。電子ファイルで wangmx@nifty.com までお寄せください。欢迎大家来投稿!

* 1 そもそも中国文学無くしては日本文学が花開くことはあり得なかったと見做されている。中宮に清少納言が「香炉峰の雪は」と聞かれ、当意即妙に「簾を掲げて」見せたと言うこの一行も、白居易の詩に由来するものである。文学だけでもその恩恵は測り知れない。

上野先生の御本はたいへんユーモアに富んでいて、『知ってるつもりの中国語』も最後まで一気に読んでしまえる一冊である。先生の著書を機会あらばご一読をお勧めしたい。

話は増田渉（ますだ わたる）先生に及んだ。氏は鹿島町の医家の出身で、かの魯迅に上海で師事し、『阿Q正伝』『狂人日記』は無論、“心あらば伝えてよ”の佐藤春夫の『平妖伝』の下訳もし、良く知られる中国文学のその殆どの翻訳者であり、最期は同じく中国文学者竹内好（たけうち よしみ）の葬儀で弔辞を読む最中に倒れ、後を追うようにして数日後没した学者である。斎藤責任者に案内されて、鹿島町のその記念館に足をお運びになった。中国語の話もさることながら、この驚くべき功績の島根県人の話に触れて下さったお陰で、増田渉の足跡を新たな気持ちで読み直させていただくことができた。

このように意義ある講演会を開いて下さった両会場主催者の皆様のご努力と受講者の皆様の御来席、及び御後援を頂いた方々に心よりお礼申しあげる次第である。

「子曰く、学ばて時に之を習う、亦楽しからずや」。一生かかっても、我々の知り得る中国語はほんの雲間から見える一端なのであるが、その一端による力は測り知れない。必ずや人生の友となり、耐え抜く力と成り得るであろう。

今回の講演会に感謝申し上げると同時に、今後とも松江会場、境港会場の御活動に期待してやまない。

七夕の願い事

我希望大家健康和幸福!

我想去台湾、大陆旅行 (木山)

寻找我的河汉女，要到天上飞! (石狗)

我希望我三个女儿都过幸福的日子! (水凌)

我想去丽江旅游&身体健康! (小笹)

我想去中国旅行 (奈良)

我希望世界和平 (金津)

心稳健康 (吉野)

クイーンエリザベス号で世界一周 (渡边)

祝上海世博会成功 (糸川)

能流畅说中文，想去中国 (河角)

我希望家里人幸福、健康 (大野)

世界和平全家健康 (盐见)

我希望留学成功 (建仁)

能很快地说中文 (河西)

家族健康 (大岛)

身体健康!! (松本)

发大财 (山根)



～上海からの便り～

暑期汉语班

上海に来て半年経ちました。夏休みは、復旦大学で4週間の暑期短期学習(通称、「暑期汉语班」)に参加していましたので、今回は、その様子や感想をお伝えしたいと思います

私は大学のキャンパス内にある宿舎に住んでいるのですが、そこから復旦大学まではバスで約50分、バス代は4元。8時の始業時間に間に合うように、毎朝6時半には出かけました。その時間すでにバスは満員、中国人は本当に早起きです。

授業は午前中の4時間で、前半2時間を主に生詞や课文の説明、後半2時間を课文に出てくる文法事項を使った口语を中心に...という構成でした。(午後は予習復習するのも、遊びに出かけるのも自由。私は週3回は日本語を教える予定が入っていたので、学食で昼ごはんを食べるとすぐに帰っていましたが。)前半後半で先生も交代します。クラスは分班考試によって、基礎8段階、中級、高級の10班に分けられ、私は基礎5班でした。

この汉语班に参加して一番嬉しかったのは、中国語を使っていろいろな国籍の人と話げたことです。一言でも会話をした外国人はアメリカ人、スペイン人、韓国人、オーストラリア人、フランス人など、5カ国ですね。今、自分で確認してちょっと驚きました。また、高級班の欧米人どうしが中国語で話しているところなど、私にはすごく珍しい光景で、思わず廊下で立ち止まってみとれてしまいました。

欧米人も発音や声調を間違えます。私は、「日本人だから、私は声調が苦手なんだ。」と思っていたのですが、それは勝手な思い込みだったようで、日本人も日本人以外もみんなよく間違えていました。どうやら声調は中国語学習者に共通の課題のようです。

それから、当然といえば当然ですが欧米圏の学習者は口语、聴力は得意で、阅读、写字が苦手、日本人はその逆という傾向を実感しました。欧米人の書く简体字は稚拙かもしれませんが、说錯を気にすることなく積極的に話すのも欧米人。「大きく口を開けて」と注意されるのは日本人ですが、造句はうまいし字もきれいで読みやすい、そんな感じでした。汉语班も終わりに近づいたある日、先生が测试の説明をしている途中で、突然あるアメリカ人が「文章を『書く』のは日本人にとってはいいかもしれないけれど、僕たちとしてはやめてほしいよ。」とめっちゃめっちゃな声調で明るく騒ぎ出しました。私は笑いながらも、日本人とアメリカ人の学習傾向と氣質を的確に表す象徴的な場面だな、とヘンなところで妙に感心してしまいました。

ところで、欧米人の学習者は、自分の名前を漢字で表した「中文名字」を持っています。先ほどのアメリカ人は「ジェームス」といい中文名字は「可杰」、オーストラリア人は「爱诗」という感じで……。最初から名前が漢字の日本人や韓国人にはないので、ちょっとうらやましい気がしました。ないものねだり、ですね。

参加者の年齢が一番多いのは大学2、3年生(特に、日本からは団体で来ているので、一番多かったです。)ですが、私の班には、上は、退職後毎年中国のどこかの大学の汉语班に参加し、通算13回目、復旦大学には5年連続というすごい方から、下は15歳の中学3年生(彼は日本で育った中国人で、母語は日本語。母国語である中国語を勉強中でした。)までいました。ご夫婦で参加という素敵な日本人カップルにもお会いしましたよ。

一番の不安は中国語による授業が聞き取れるか?ということだったのですが、先生が話すのは発音のクリアな、しかもレベルに合わせた课堂汉语なので、ほぼ理解できたと思います。

「一句话也不要听漏!」という勢いで聞いていましたから、授業が終わるとかなり疲れていましたけれど……。私は中国に住んではいるものの、大学の日本語科に所属していて先生方や学生とは日本語で話すことの方が、実は多いのです。ですから、毎日きれいな中国語をたくさん

聞ける生活が終わってしまい、残念です。本科生として、あるいは汉语进修生として日々中国語の中で生活している留学生がうらやましい気もしますが、そうも言っていられないので、9月からはまた、日本語の授業をしながら中国語学習の毎日です。

短期学習は上海市内だけでも5校、北京、西安など中国各地で開催されています。期間も2週間～6週間といろいろです。日本での中国語学習の成果を試す場として、これからの中国語学習への新しい刺激を得る場として、中国語学習を頑張ってきた自分へのご褒美として、観光旅行とは違う中国を体験する場として……いかがですか？汉语班！（明本）

宋代の少林寺の石彫刻



人生的轉折點

我在这二十三年中，我有两个转折点。这次我介绍一下。

第一是我高中二年级的时候。那时候我在津和野住。津和野和德国柏林市有姐妹城市协定，它们一年一次在津和野或者柏林市顺次召开学生交流会。我是在二年级的时候有日本学生派遣柏林的。所以我应募了去柏林。在柏林我很烦恼、很忙，因为要接受新的事物，我完全听不懂德语和英语，不知道每次吃什么，看不到矿泉水，还有德国的高中学生个子很高，很好象是大学生似的。但是，我觉得德国人很开放，对女性和小孩儿很亲切和礼貌，而且成人听孩子说的话，听孩子的想法。我觉得外国的生活很舒适的。我想再去外国会体验国外的。以后我努力学习英语和关于国际社会的问题。

第二个转折点是我在中国留学的时候。我住在中国学生宿舍里，我有美国和法国同学，还有其他大学的留学朋友。一年中在中国，我结识了很多中国人和外国人，我们成长环境的背景都不一样，宗教也不一样，当然想法也不一样。聊天中有时朋友问我“在日本怎么样？”还有有时候外国人对日本的文学，历史或者文化都很了解，他们对我说“我很喜欢谁谁，什么什么”等等...那时候我痛感关于日本我什么都不知道。同时我也到惭愧。

后来我想重新认识日本。回日本以后我很开心日本的生活，我还要发掘更多个的日的魅力。我知道这是很奇怪的想法，但是我觉得日本很有意思。

现在我想问您们，让您们的想法改变的事情是什么？您们的转折点是什么？（土谷）

尽管民族不同，可是朋友还是朋友

从4月18号到5月23号NHK电视台播放的连续剧『遥かなる絆』(遥远情感的纽带*)，让人很感动。

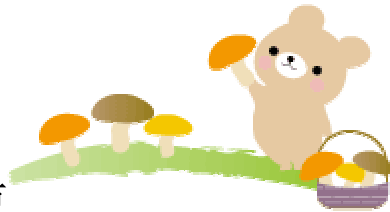
这部电视剧是女作家城户久枝女士的作品，这是一个真实的故事。

久枝的父亲(城户幹先生=中国名字是孙玉福)是日本战争孤儿。他经历了很多苦难。在1970年，时隔25年，终于回国了，和父母重逢了。但是，在中国的养母确不想和他离开。在牡丹江车站(黑龙江省)，与养子(孙玉福)告别的时候，她觉得真是要死了，伤心极了。

30年后，养子(幹)的女儿(久枝)成长为大学生，到中国留学了。在那里，她(久枝)知道了，曾经自己的父亲跟养母经历了一段非常艰辛的历程。通过留学生活，作家自己(久枝)也知道了两国人民的想法和历史观等不一样的事实。所以，她有时也苦脑。比如说，中国人对日本人的一些成见。我也理解她(久枝)的心请。我也想，的确国家和国家，人和人的想法不一样。但是，在中国父亲的养母，还有她(久枝)的“亲戚和姐姐” 还有朋友们，对她(久枝)友善的人也有。

作家(久枝)说『尽管民族不同，可是朋友还是朋友』。对我来说，这句台词给我留下的印象特别深刻。还有，留下了深刻印象的词是『落叶归根』、『车到山前必有路』、『苦尽甘来』…这些都是克服艰难的词，还有给我们增加勇气的词。

同时，为促进两国友好交流，我想让大家知道这些词的意思。(建仁)



秋天，我最喜爱的季节

秋天，是我最喜爱的季节，
我盼望着秋天的到来。

闷热而严酷的夏天过去后，
凉快的秋天来临了。

秋天，是水果和农作物收获的季节。

日本的秋天，各种水果纷纷成熟，相继上市。
我们可以尝到葡萄、梨子、栗子、柿子、桔子、
苹果、甘薯、蘑菇等等，

什么味道都有！

秋天被称为“食欲的秋天”。
因为炎热的夏天变得凉快，
到了秋天，谁的食欲都会增加，
收获的食品也渐渐好吃。

秋天也是“旅游的季节”。

近几年，参观和食欲，满足双面的旅游规划也很多。

日本的秋天，也是“祭祀的季节”。
是向神献上收获的新米和蔬菜的季节，
感谢天神的恩惠，对农民来说，
是非常重要的仪式。

秋天被称为“体育的秋天”，
运动会在各地召开。

秋天 即使我不参加活动，
即使我不去旅游，对我来说，
看见青绿的群山，被满山的枫叶染红，
也是我莫大的幸福。(金津)

チップチップのトラウマ故事

2002年7月3日～7月8日「長江三峡下りと武漢 6日間（新日本トラベル一行12名）の旅に参加しました。ダム completionにより、三峡は2003年近くも水位が上昇するので、三峡下りは遠からず体験できなくなるというのが客寄せのうたい文句で、親交のあるO先生と2人での参加です。O先生は今回が初めての中国旅行で、護照（パスポート）は持っているので一回ぐらいいは使いたいというのが参加理由。私の誘いにこころよく乗ってこられたのでした。

3日目は奉節と言うところで三峡クルーズ船「女王号」を下船、白帝城観光です。スケジュールの関係で夕食を終えてからの夜の観光です。あいにく小雨が降っています。

白帝城は歴史好きの日本人なら一度は訪れてみたい観光スポットです。三国志の英雄、蜀の劉備が死を迎えた所として有名なばかりでなく、李白の五言絶句でも知られた唐詩の舞台だからです。私たちもここに行ってみようというメインの一つでした。

朝辞白帝彩雲間（あしたに辞す 白帝彩雲の間）
 千里江陵一日還（千里の江陵 一日にして還る）
 兩岸猿声啼不住（兩岸の猿声 啼いてやまざるに）
 輕舟已過万重山（輕舟すでに過ぐ ばんちょうの山）

白帝城は山上にあります。歩けば片道30分はかかりそうです。駕籠かきの男たちが渡し舟の到着した場所にたむろしています。

小雨ですが舗装もされていない山道。裸電球が曲がり角など所々にはありますが、薄暗くてまことに心もとない照明です。我々の足元を見透かしたように男たちが駕籠に乗るように誘います。上半身裸の屈強な男たちです。添乗員氏は歩くようですが、話の種にもなるかと、一行は駕籠に乗ることにしました。値段の交渉は添乗員氏に任せたとこ、1人200元、日本円で3000円です。会社のピンハネがあったとしても、彼らにとってはかなり割りの良い稼ぎにみえます。

駕籠は、底の浅い乳母車状のものを2本の竹の上に載せて、それに客を乗せ、前後を2人の男がかつぐのです。当時の写真を見ると、肩で担ぐと言うより竹を固定する横木を首で支えながら肩に掛かる力を助けているようです。それにしても登り道はかなり急ですから相当な重労働です。乗ってる方も大変で、登り道は後方へかかる重力に負けないように前傾姿勢を余儀なくされます。怖いのは下り道で、肩の高さから谷底を見ながらの下山です。加速度がついたように男たちは早足で下りて行きます。一步でも足をすべらそうものなら、千尋の谷底へもろとも落ちてゆかねばなりません。ヒヤヒヤの駕籠体験でしたが、城内の展示物、中でも病床の劉備と脇に立つ諸葛孔明のリアルな復元図は臨場感が出ていて見応えのある素晴らしいものでした。

出発点まで戻ってから、O先生が「途中からチップ、チップと言いついてどうしようかと思つたで...」と言われます。私を担いだ駕籠かきはそんなことを言わなかつたので、まさかとは思つたのですが、中国語のまったく分からないO先生は「チップ、チップ」だけは鮮明に聞こえたようでした。しかも自分だけが他の人と違う道へ連れ込まれたというのです。登り道、下り道と決まてはいないけれども複数の道が白帝城とつながっているのです、みんなと違う道を登つたO先生はさぞかし心細かつたことでしょう。

後での話では、ジュースを奢らせられた女性もあったそうで、与しやすい客には難題をふっかけるあたり、江戸時代の雲助を思わせます。チップを与えることはたいした負担ではないでしょうが、暗がり、言葉の分からぬ男たちから脅迫されるとき心理状態を考えると笑いごとですませる出来事ではなさそうです。が、傍観者たる私は李白のパロディを作りました。

夕登白帝暗闇道
八百石段乘籠踏
両端雲助請駄賃
重籠漸到山上城

〇先生は今でも夢に「チップ、チップ」の音が聞こえてくるということで、私が中国旅行に誘っても尻込みをされるのです。チップチップのトラウマ物語です。(石原 亨)



儿时的记忆(下)

如果童年可以重来、多少快乐的回忆真想再次重温。特别是在金秋来临的时候、天空更加湛蓝、空气加清新了。在宜人秋风的陪伴下、放风筝是儿时最快乐的事情之一。

那时、我们不买风筝、和小伙伴一起做最简单的。材料是用竹签、旧报纸、或旧宣纸等、我们叫它「蝌蚪」风筝、两条长长粗粗的尾巴为了让它高高地飞起。

开始放风筝了、个子高的孩子、扯着线跑了起来、我们跟着后面边喊边跑「放风筝啦、放风筝啦」。风筝越升越高、我们兴奋极了、雀跃着欢呼着、幻想着有朝一日、自己也能变成一只风筝、飞向蔚蓝的天空... ..

记忆中的草地、是一个未来的舞台；记忆中的风筝、是一个美丽的梦想。

(山阴中央新报文化中心中文教室 胡斌)

松江情趣(一)

刚来松江那年，正赶上十二年才举行一次的ホーランエンヤ。时间一晃今年又看过了。有人说到一个新地方要写感受的话，最好在头一两年写，住的时间一久，便习以为常，不觉得有什么新鲜可写的了。话虽是这么说，可总觉得应该写点什么才好。

松江不大，近 20 万人口。名字叫起来没有东京、大阪那样响亮。有朋友问起松江在日本什么地方时，我告诉他们从大阪到松江坐大巴要四个小时。不知他们对此答案是否满意，他们也很少继续追究下去。最近一次回国时，带上了一本中文版的松江介绍，有人问起时，就指一指上面的地图给他们看。

松江北面临海，四周环山，西边还有一湖，湖中有一小岛，湖面总有很多野鸭子游着，湖上的落日很壮观，成为松江旅游的一大景点。住在松江，觉得和自然特别近，夏天要下海游泳，冬天要上山滑雪都很方便。对于一个出身中国南方内地的人来说，是颇具魅力的。(山雨)



大家好!秋天到了。今年东京又一次盛大地举办了【东京国际电影节】。我在这个节上看了一部最新的法国电影和三部中国电影。看到世界上首次放映的电影,我激动得心跳不止。听导演、演员在舞台上讲他们的电影,对理解电影也很有帮助。这次我来介绍我看的几部电影。

今年も「東京国際映画祭」が盛大に開催されました。私はこの催しで最新のフランス映画1本と中国映画3本を見ました。ワールドプレミア(世界で初めての一般上映)の映画を観ることはとてもわくわくします。そして、舞台上で監督や俳優が映画について話すのを聞くのはとても参考になります。今回はこの映画祭で観た映画を紹介します。

『天长地久』

很帅! 中国电影里前所未有的

导演 李芳芳

拍摄地方 杭州·北京

演员 刘冬 黄明 铁政 史可

剧情介绍 “如果我找到了不变黄的白色, 是否就可以找到永远的爱?” 这部电影描写了所谓“80后”的一代年轻人, 虽被一个接一个的困难所困扰, 仍然相信“永远的爱”的故事。一句评论 这是年轻女导演第一次拍摄的长片。我感觉好像在看韩国电影。影像太酷了! 中国电影好像迎来了一个新的时代了! 喜欢“韩流”的太太们一定会喜欢这部电影。



『永遠の天』

* “もし黄色くならない白色を見つけることができれば、永遠の愛も見つけることができる?” いわゆる「80後」といわれる若者たちが次々と起こる困難に迷いながらも永遠の愛を信じようとする姿を描いています。

* この作品が初めての長編作品という若い女性監督の作品。韓国映画を観ているような、とてもクールな映像です。中国映画も新しい時代を迎えたよう。韓流好きの奥様たちもきっと気に入ることでしょう。

『麦田』

导演 何平

演员 范冰冰 黄觉 王志文

剧情介绍 赵国的男人都去参加秦赵之战。城市内只剩下女人们。一天秦国战士逃跑到这个城市。他们觉得如果女人们知道自己是秦国战士, 会被女人们杀害。所以他们说谎自己是赵国的战士。虽然女人们热情招待他们。但是城主夫人不完全相信他们的话...

一句评论 导演说他想描写战争的悲惨不仅仅是在战场。麦田的风景和孩子们绕梁的歌声给人留下深刻的印象!



『麦田』

* 趙の男たちは秦と戦うためにすべて戦って行ってしまった。ある日この町に秦の逃亡兵がやってくる。彼らは、敵国秦の兵士だとわかれば殺されてしまうと思い、自分たちは趙の兵士だと偽をつき、町の女たちに歓待される。しかし城主の妻は男たちの話を信じきれずにいた...

* 監督は戦争の悲惨さは戦場だけにあるのではないことを描きたかった、と話しておられました。麦畑の景色とそこに響く子供たちの歌声が印象的です。

『建国大业』

导演 韩三平 黄建新 陈凯歌 陈可辛

演员 唐国强 张国立 陈坤 许晴 劉德華 梁家輝 章子怡... 很多有名的演员

剧情介绍 纪念中国建国六十周年摄制的电影。中国电影界的豪华导演、演员阵容都参加了制作。这部电影描写从「第二次国共合作」崩溃到「中国人民政治协商会议」成立的历史。

一句评论 不了解中国历史的话, 很难把握故事情节。不如找找“那个导演! 那个演员! 出现在那个场面”更愉快。



『建国大業』

* 建国60周年を記念して製作された映画で、中国映画界の大物監督、大物俳優たちが制作に参加しています。

「第二次国共合作」崩壊後、国政の諮問会議「中国人民政治協商會議」が誕生するまでの歴史を描いています。

* 歴史を知らないとストーリーについていくのが大変。それよりも“あの監督が”、“あの俳優が”こんなところに出演している」というのを探すほうが楽しいでしょう。

(第9面に続く*2)



京 劇 紹 介

中国建国 60 周年を記念して、中国で唯一となる国立の京劇院 - 中国国家京劇院が、日本側の要求に応じ、古典小説『水滸伝』を題材に「新作『水滸伝』宋江と梁山泊の英傑たち～水滸之誓～」を作りました。10 月から 12 月まで日本 33 の都市で公演しています。

京劇は安徽省の地方劇をもとに生まれた「伝統劇曲」です。200 年来人々を引き付けた魅力はまるやかな歌、節回しの良い北京音、細やかな動きなどにあるでしょう。京劇役者は唱(歌)、念(セリフ)、做(しぐさ)、打(立ち回り)この 4 つの技量が要求されます。

还有法国
的电影呢

京劇の鮮やかな衣装とメイクも印象的です。その色彩において黄、赤、緑、白、黒を「上五色」(主役用)、紫、青、ピンク、薄緑、茶を「下五色」(配役用)があります。それぞれは人物の身分、地位、年齢など表します。顔のメイクの色にも赤 = 忠義、黒 = 実直、青 = 勇猛、緑 = 義侠、白 = 腹黒など意味が込められています。

京劇の役は老、旦、浄、丑四種類に分けます。「生」の役柄は京劇中最も重要であり、中では、「老生」(年の男)、「小生」(若い男)などあります。「旦」は女性役。昔は男性でしたが、今は女性が演じています。「浄」は性格の激しい大男を演じることが多いです。特有の「臉譜」(くまとり)は役柄によって決められています。「丑」は鼻柱にある形の白い模様を塗る道化役。昔社会地位の低い役が多い。

『水滸伝』は中国の北宋末期、画家・書家として超一流で、政治的センスゼロのダメ皇帝徽宗の統治による悪政を背景に、「梁山泊」に集まった百八人の英雄豪傑がお上を逆らうさまを描く物語です。京劇を見たことのない方ぜひこの機会にご鑑賞ください。日本語字幕付き。

松江公演は 12 月 7 日(月)松江県民会館大ホール チケット料金 6900 円

今年の10月は国慶節の7日間と中秋節の1日休日が合わさって長い休暇になり、それを利用して、旅行や「聚会」（友人や親族が集まる食事会）などをする人がとても多かったです。有名な観光地を訪れる人は去年より2割も増えたと報道されました。わたしも20年ぶりに大学の同窓会で中国に帰りました。中心地にある大学は高層ビルに囲まれ、当時より小さく感じました。友だちの多くはマイカーや広い住宅を持ち、昔では考えられない裕福な暮らしをしていました。昔から今に至るまでの変化に驚いているうちに、不意に、言葉の変化について考えはじめ、今日の話を取り上げることにしました。以下の三つの言葉をご紹介します。



露天电影(lù tiān diàn yǐng) 野外で見る映画のことです。私の両親は大学で教えていたので、当時から我が家は大学構内にありました。日本では考えられませんが、中国の大学構内は刑務所以外すべて揃っているといわれるほど小さな社会を形づくっています。学生寮、先生の宿舎はもちろん、病院、郵便局、ホテルなどもあります。**露天电影**はいつも土曜日の夜、大学のグラウンドで上映されます。そこは一番前にステージがあり、それから階段、斜面になっていて、千人以上を収容できるでしょう。映画を放映する部屋があり、専属の放映師もいました。週末になると、ステージに白いスクリーンが掛けられます。夕飯を済ませ、家族四人掛けの長いベンチを持って、場所取りにいくのが常でした。テレビのない時代に**露天电影**はみんなの共通の楽しみで、印象に残るセリフは今でも覚えています。



粮票(liáng piào) 食料配給券のことです。計画経済の時代、食料は国から配給されていました。**粮票**には1両(50g)、2両、半斤、1斤(500g)、3斤などがあり、大人、学生、子どもによって、それぞれ配給キ口数が違います。町に住んでいる住民は毎月戸籍簿を持って、指定された国営の食料販売店に**粮票**をもらいます。この制度は1993年に廃止されるまで30年以上続きました。当時はお金があってもパンやご飯などが買えないので、**粮票**はとても貴重なものでした。学生時代に母が1か月分の**粮票**をなくした大事件があったそうです。家族にとっても言うことができず、どうやら一ヶ月友人のところで食いつないだそうで、母は今でもその友情に感謝しているのです。**粮票**以外にも、布や油などの配給券もあり、ものが乏しい時代に配給券は付き物でした。

上山下乡(shàng shān xià xiāng) 60~70年代文革の間、共産党が青年たちを都会から農村へ行かせ、農業に従事させた政治運動のことです。大学入試が中止され、学校より農村という広い世界で鍛えようという毛沢東の考えの下で、知識青年たちは都会から辺鄙な農村に送り込まれました。大部分の人は数年後都会に戻り、工場で働いたり、遅れて大学に入学したりしましたが、現地の人と結婚し、そこに留まった人もいました。厳しい農村の環境は、王小波のような作家を数多く生み出しましたが、一千万人以上の知識青年の人生が狂ってしまったのも痛々しい事実です。

(松江テルサ中国語教室 王岷雪)